

農業協同組合が合併

…鷹岡、伝法など9農協…

市内の9農業協同組合が新しく「富士市農業協同組合」をつくるため、さる3月29日に合併予備契約を行ないました。合併の予定日は9月30日です。

現在、市内には14農業協同組合ありますが、こんど合併するのは鷹岡、須津、原田、元吉原、今泉、伝法、島田、吉原東、大淵の9農業協同組合です。

近年は、農業をとりまく経済社会の進展にともない、農業経営にも激しい変化をもたらし、農地の減少、兼業農家の増加などの傾向をみせています。

このため、昭和36年に農協合併助成法が施行されてから、体質改善による統合強化をはかるため、農協合併が各地で急速にすすめられてきました。

富士地区でも、13農協が昭和37年ころから合併について、調査、研究を行なってきました。しかし、富士、田子浦、岩松の3農協が独自の合併構想をたてたので、このほど9農協による合併が決つたものです。

新しく「富士市農業協同組合」が誕生すると、組合員は正組合員7,000人、準組合員3,000人の計1万人になります。貯金額は約90億円、購売取り扱い高は7億円、販売取り扱い高5億円、共済保有高80億円になり、全国第4位、県下第1位

のマンモス農協になります。

また、合併の目標は具体的には次のようになっています。

■農協行政と一体となつた生産組織育成
国、県、市の農業行政とともに、地区農業の今後の方針づけを行なつていきます。それとともに生産者組織を確立し、生産意欲の向上をはかります。

■指導事業の確立
生産業種別に専門指導をおもにした体制をつくり、地区の実情にあつた生活指導をします。

■施設の整備
茶、果樹、施設園芸に対する農協施設を強化し、また農家施設の整備に積極的な援助していきます。

■経営の合理化
資金の効率的な運用をはかるとともに組合の信用を高めていきます。



<写真は吉原市民会館で行なわれた合併予備契約>

市内全域が市内通話に

…4月15日に電報電話局が合併…

電報電話局の合併がきまり、4月15日正後から市内全域が「市内通話」になりました。

この合併で市外局番は3局とも「0545」でかわりませんが、市内にかけるときは市内局番と加入番号だけで、通話できるようになりました。したがって市内全部が「富士局」になります。市内へかけるときは、市外局番「0545」は絶対にまわさないようにしてください。

また、市内の電話局は、吉原電報電話局、富士電報電話局、鷹岡交換局の3局がありました。この合併で、吉原電報電話局が「富士電報電話局」に、富士電報電話局が「富士電報電話局平垣分室」になりました。なお、受持ち電話局が変更したので、次の地域へかけるときはとくに注意してください。

■久沢北、天間新田、韭久保、天間北、天間川坂は、市外局番が「0545」になり、市内局番「71」がつきます。

■片宿、傘木、中桁は市内局番が「71」になります。

■長沢は市内局番が「51」と「52」になります。

■五味島、高島は市内局番が「51」と「52」になります。

■前田は市内局番が「33」になります。

今と昔

富士駅前 ①

明治22年に東海道鉄道が開通してから駅を欲しいというのは、加島、田子浦、岩松地区の人たちの宿願でした。

そして、駅の敷地と駅舎を当時の鉄道省に無料で提供して、念願の富士駅ができたのが明治42年4月21日でした。

同時に、富士駅から鷹岡村長沢までの

馬車鉄道が開通しました。この馬車鉄道は鈴川・大宮町間の鉄道馬車と接続されました。

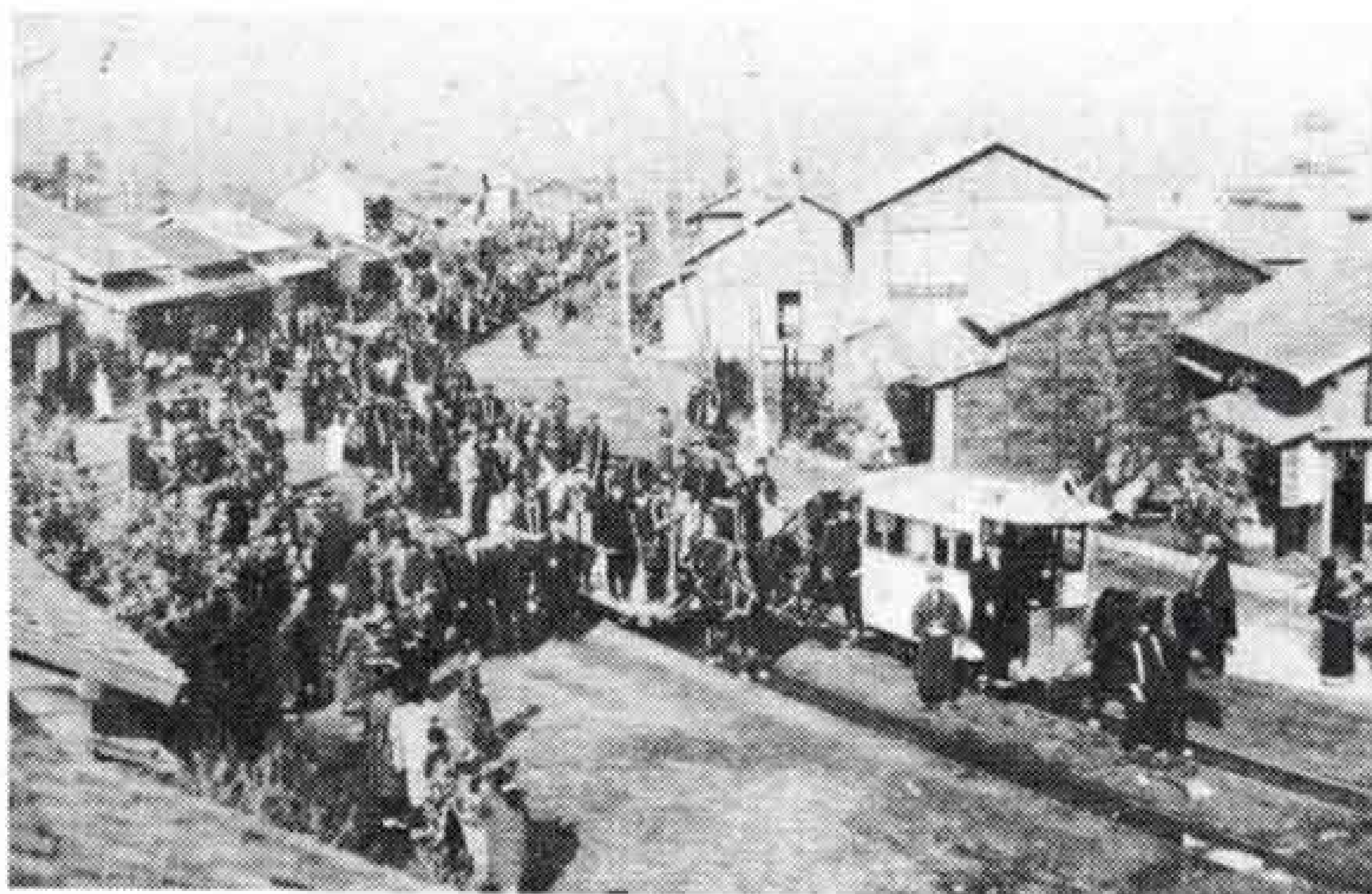
この前年、富士製紙会社は第8工場をいまの本州製紙の所に建設しました。その結果、静かな農村は急激に変化し、駅前を中心に都市化がすすめられました。

写真は富士駅前の繁華街です。馬車を

今と昔

先頭に、紋付羽織やフロックコートに威儀を正した人たちは、馬車鉄道の開通を記念した長い行列です。(鈴木富男稿)

※この号から「仏像をたずねて」にかわり「今と昔」が登場します。めずらしい風景、風俗写真をお持ちの人は市史編さん室(富士事務所内)または秘書課広報係(本庁)へご連絡ください。



■ 祝祭日には国旗を掲げよう。4月29日は天皇誕生日